

グエン・イニイ

ベトナム出身

麗澤大学 外国語学部外国語学科

私が見た・感じた「ジェンダー・ギャップ」 について

現在、ジェンダーギャップの問題はどこでもまだ残っていますが、昔と比べて、改善して来ている部分もあるでしょう。私の出身はベトナムです。ベトナムの文化は中国の文化の影響を受けて、儒教が浸透しており、男尊女卑と女性は家事、男性は一家の大黒柱という考えがまだあります。

しかし、現在では徐々に改善してきていると思います。例えば、「女性でも男性のように自分の国、自分の権利のために戦うことができる」ということを子供の頃から学習してきました。また、ベトナムの歴史の中で兵士として戦死するさまざまな女性人物も例として挙げられます。中でも私が一番好きな人物は徴 姉妹（ハイ・バ・チュン）です。昔、中国にベトナム北部を支配されましたが、40年に徴姉妹はベトナム人の反乱を指導したと言われています。このような歴史からは女性の価値が確認でき、男性に対する劣等感を感じる必要が無いことは明確です。

現在ベトナムでは、男女平等思想が強くなると同時に、共稼ぎ家庭が一般的になりました。女性の就業率は世界平均で見ると47.2%であるのに対し、ベトナム女性の就業率は70%です。さらに、アジア諸国の上級管理職の女性比率においては、ベトナムが高いグループ(36%)に属しています。

教育以外に、ベトナムで女性の立場に対する認識が高い理由のひとつを紹介したいと思います。毎年、ベトナムでは「国際女性の日」と「ベトナム女性の日」という記念日があります。ベトナム人の女性達、例えば過去に英雄的な活躍をした女性や、また時代やその功績に関わらず全ての女

性に対する感謝の気持ちを表す日です。当日は、男性が妻、恋人、母親など身近な女性にちょっとしたプレゼントをするのが一般的な慣わしです。職場では、男性職員がお金を出し合って女性職員にお菓子などを配ったり、ランチをご馳走したり、皆で娯楽イベントや料理コンテスト等を開催するところもあります。更には、会社が女性だけに小額のボーナスを支給するケースも。大部分のベトナム男性は女性をこのように特別扱いすることに抵抗はあまりないです。このような活動も、ベトナムで女性の立場に対する認識が高まって来ている理由のひとつではないかと思います。

8月のON 2022イベントで、皆様からさまざまな貴重な経験と意見を共有していただき、とても良かったです。確かに、ジェンダーギャップについて、男性だからあまり気にしていなかったという意見もあります。それは珍しい事ではないと思います。しかし、ジェンダーギャップを気にしない事が、無意識にジェンダーギャップを助長する事に繋がりがかねません。そのため、ジェンダーギャップを改善するためには、皆が強く意識するべきだと思います。

崔恩瑛さんが述べたように「女性差別を改善していくためには男性たちとの力合わせなしでは叶えない問題」だと思います。男性のジェンダーギャップに関する理解が高いと周囲のジェンダーギャップの行動に遭遇した時はすぐに女性と力を合わせられます。それは茶山さんの英国での経験と同じで、「男性のジェンダーギャップに関する理解が抜群に高いように感じます。友達同士であっても女性を軽視するような発言をしたら確実に怒られますし、かなり響感を買います。」この意識は非常に大事ではないかと思います。

かつて、生産業や農業が中心であった時代、

力が強いという利点を持つ男性が家計の主な稼ぎ手となっていました。しかし、現代ではテクノロジーや機械の発展によって筋肉力より専門知識やスキルが求められ、女性の育成を制限する理由はもはやないでしょう。社会的偏見や長年の認識に女性の役割を決定させるのではなく、女性自身が決定するべきだと思います。女性個人の能力がより認められる環境を作るために、女性がこの問題と戦うことはもちろん、男性も力を合わせる必要があると思います。

以上